

No. 909

# ヒカルイマイ強し

## 第38回日本ダービー

第38回日本ダービー——。競走馬としての最高の榮譽はどの馬と騎手に輝くか。6月13日府中東京競馬場は雨も上がり、スタンドは13万7千人の観衆で超満員。

一番人気のダコタ、二番人気のヒカルイマイ、28頭のえらびぬかれたサラブレッド四歳馬が2400mに激しいレースを展開する。

午後3時45分スタートは切られた。レースは終わった。

まだ23歳という若い田島騎手が乗るヒカルイマイが優勝。

タイム2分31秒6。

さつき賞ダービーとダブルクラウンに輝いたヒカルイマイ。

ドロまみれの死闘に耐え、見事に勝ったヒカルイマイと田島騎手にスタンドから惜しめない拍手が贈られていた。

# 終 点 道 場

「現在の医者はだネー、ほんの一部を除いて皆なっとらん。ここが悪い、あそこが悪いと言ってはだネー、あちこち切りやがってだネー、もうどうしようもない体にしてしまう。整形外科なんてのはだネー、ありや<sup>\*</sup>変形外科。と変更すべきじゃないかネー。」と息巻くのは黒めがねの道場主、田中定雄（東京都江東区53歳）さん。

<sup>\*</sup>終点道場。という名前は、あらゆる医者に見離された患者が最後にここへ来るから名付けたそうである。

<sup>\*</sup>足槌槌圧。なる治療法、なんのことはない、患者を足で踏みつけ、槌に乗っかり、槌で体中を打ちまわるだけ。だが、一見この手荒い簡単な治療を受けると、むち打ち症や疲労した体が一へんに治るというから不思議。住居併用の狭い道場には「この先生に見離されたらもう終りです」と文字通りの終点を自認する患者がいっぱい。先生の毒舌と患者の悲鳴が入り混じるこの道場、うとうしい梅雨と暑い夏が一番繁盛するとか。